那珂市の名誉（めいよ）市民

那珂市では、四人の政治家の業績をたたえるとともに、一人ひとりが先人に学んで明るい希望に満ちた社会づくりにまい進する決意を新たにする目的で、この四人の政治家を、名誉市民として紹介しています。

根本　正 ―不屈の政治家

義務教育の無償化をはじめ、未成年者の禁煙禁酒法を成立させました。健全な青少年の育成に力を尽くした根本正は、若い頃から世界に関心をもっていました。その思いが後に大きな成果を生むきっかけとなりました。

ふまれても
根強く忍べ路芝の
やがて花咲く
春をそこまで

この歌を、根本正は自らの生き方の生涯の指針として大切にしていました。

中井川　浩 ―情けに深い正義漢

中井川浩は、警察官であった父親ゆずりで、とても正義感の強い人でした。

新聞記者時代には、当時の県の政治体制に対し、記事を通して堂々と自らの正義を主張しました。政治家に転向した後も、その正義の心は変わらなかったと言われています。

「不言実行ただ一筋」

中井川浩の支援者が作った歌の一節です。人の悪口は言わず、多くを語らずにひたすら行動に移す。中井川の人柄を表す言葉です。

宮本　逸三 ―貫いた郷土愛

宮本逸三の父親は当時の芳野村（現在の芳野地区）の初代の村長を務めていました。父子二代に渡って地域の発展に力を尽くしました。宮本逸三が水郡線の敷設をはじめ、那珂市の発展に、特に力を注だのも、この父親の影響があったと考えられます。

「一心協力」

この言葉は現在も宮本家に伝わる大切な言葉です。水郡線敷設に尽力した宮本の努力が象徴される言葉となっています。

岩上　二郎 ―マイナスからの脱却

生まれつき体が弱く、控え目な性格だった岩上二郎は、中学時代の部活動の先生の一言で、発想の転換を果たしました。それまで弱点だと考えていた左利きを、逆に生かす方法を考えたのです。

「マイナスからの脱却」という彼の発想はこうした経験から生まれたと言えます。

一粒の麦
地に落ちて死なば
豊かな実結ばん

これは聖書の一節です。この言葉を岩上二郎は座右の銘とし、政治家としての心構えとしました。

名誉市民章

那珂市ゆかりの人々

水戸 光圀

水戸光圀像
（常磐神社所蔵）

「水戸の黄門様」として有名な徳川光圀は、第二代水戸藩主でした。「大日本史」の編纂は光圀の有名な業績の一つです。那珂市内には光圀ゆかりの神社やお寺が数多く残されています。

徳川 斉昭

（大洗町「幕末と明治の博物館」所蔵）

水戸藩九代藩主である斉昭は、新しい学問や政治の仕組みなどをいち早く取り入れた、優れた主君でした。那珂市にも度々訪れており、額田や瓜連にその記録が残されています。

藤田 幽谷・東湖親子

（幽谷）

（東湖）

（「藤田東湖全集・幽谷全集」より）

幽谷（父）東湖（息子）は江戸時代中期、水戸藩を中心に広がった学問を親子二代に渡って推し進めた学者です。那珂市の飯田には藤田家のお墓が今も残されています。

吉田 松陰

（「吉田松陰全集」より）

江戸末期の学者で松下村塾という学問所を開きました。明治維新に大きな影響を与えた人物を数多く輩出しています。松陰は学問を学ぶために水戸を訪れており、その際何度か那珂市にも足を運んでいます。

源 義家

源義家は、平安時代当時「天下第一武勇の士」と言われるほどの武将でした。東北地方の戦乱を平定する際は、那珂市付近を通過したと言われ、市内には多くの伝説が残されています。

細谷 一郎

（「細谷一郎作曲全集」より）

那珂市鴻巣出身の作曲家で、NHKの専属作曲家として活躍しました。ラジオやテレビ番組のテーマソングなどを数多く残しています。那珂市内の小中学校の校歌も多数作曲しました。